



## 1 沿革と地域

### (1) 学校の沿革

明治 6.	7.	17	西方学校の友田分校として友田村妙照寺に開校
	19.	9.	27 「公立正心尋常小学校」と改称 現在地に校舎新築
	21.	6.	「吉沢尋常小学校」と改称
	22.		「河城尋常小学校」と改称
	25.	2.	「河城村立河城尋常高等小学校」と改称
昭和 16.	4.	1	「河城村立国民学校」と改称
	22.	4.	1 「河城村立河城小学校」と改称
	33.	3.	31 町村合併により「菊川町立河城小学校」と校名変更
	40.	9.	27 新館鉄筋3階建校舎完成
	59.	11.	12 新校舎落成
	63.	9.	7 「河城小100年誌」発行
平成元.	3.	17	飼育場完成
	2.	3.	4 グランドかさ上げ工事
	6.	2.	17 招魂山フェンス設置
	10.	11.	2 わくわくおもちゃハウスオープン
	16.	12.	25 「河城名所・人物100選」発行
	17.	1.	17 小笠町、菊川町の合併により「菊川市立河城小学校」と校名変更
	24.	9.	16 河城地区敬老会において「御神楽」披露
	27.	11.	26 平成26・27年度市教育委員会指定「ICT活用授業研究発表会」
	28.	10.	24 コンビネーションクライム設置
令和元.	6.		普通教室 エアコン設置
	2.	3.	3 新型コロナウイルス感染拡大のため全国一斉休校(～3/19)
		4.	7 新型コロナウイルス感染拡大のため全国一斉休校(～5/24)
		3.	4 全児童に一人一台タブレットを配布(3年生以上持ち帰り)
		5.	2 招魂山、環境整備(木の伐採)
		5.	8 普通教室照明LED化
		5.	9 本館2階多目的トイレ増設、体育館トイレバリアフリー化

### (2) 学区の概要

菊川市北東部に位置し、東側は牧之原市、北側は島田市と接する。学区の中央を東西にJR東海道本線、主要地方道吉田・大東線が走り、一級河川「菊川」の源となる山々が学区北側にそびえている。

牧之原台地に続く傾斜地には茶園が広がり、生葉の収穫から製茶まで行う大規模な茶農家が多い。かつては旧河城村を母体とした静かな農村地帯であったが、学区の西南部に新興住宅地ができてからは、保護者の職業も会社勤めが多くなってきている。地区は、北方は、上倉沢、東富田、西富田、西方は潮海寺(上、中、下)、上本所、虹の丘・富士見台、北東方は下倉沢、東南方は沢水加、学校周辺は友田、吉沢、和田からなっている。

尋常小学校として開校以来130年以上の歴史をもつ本校学区では、河城地区センタ

一を中心として青少年健全育成会議や種々の地区行事が実施され、地域で子供たちを育てていこうとする気運が強く感じられる。また、学校の教育活動に協力的な方々が多く、学校行事や地域学習等の展開において大きな財産となっている。

## 2 実態

### (1) 児童の実態

本校の子供たちは、素直で人なつっこく、学級や学年間の壁が少なく、誰とでも関わることができる。外で元気に遊ぶ児童が多く、草取りやボランティア掃除等、進んで働く児童も多い。

指示されたことについては自分たちで行動することができるが、自ら考え判断して行動しようとする主体性に課題がある。また、壁に対して乗り越える力や気持ちが弱く、あきらめてしまったり人を頼ったりしてしまう。粘り強くやり抜こうとする気持ちをもたせたい。授業には真面目に取り組んでいるが、学力の定着には課題がある。

### (2) 運営面の実態

#### ア 組織

令和6年度通常学級は1、2、6学年が単学級、3～5学年が2学級、特別支援学級は知的、自・情ともに1学級、計11学級(令和5年度より1学級減)である。年々学級数が減り、それに伴い職員数も減少している。

職員間の協力体制ができており、一つの方向に向かって力を合わせて取り組んでいる。小回りがきき、周知もしやすい反面、職員数に余裕がなく、職員個々への負担が大きくなっている。そのため、仕事量の配分や職員の育成・指導において、さらに積極的に業務改善を進めていく必要がある。

#### イ 保護者

子供の思いを大切にし、学校の活動にも理解を示す協力的な保護者が多い。失敗経験を避けたり、子供と同じ目線で全てを共感してしまったりする傾向がある。その結果、子供を「鍛える」意識が低い。

## 3 学校経営の基本方針

子供たちが生きる未来社会は、国際的にも、国内的にも混沌とした非常に不透明な社会(予測不能な社会)であると言われる。

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(中央教育審議会答申)では、「急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。」とされている。

予測不能で変化の激しい社会を自分らしく生き抜き、未来を創造するための資質・能力をもった児童の育成を目指し、以下を踏まえ、豊かで温かな河城小の教育を創造する。

- ・学習指導要領 「生きる力」の育成
- ・静岡県の教育 「有徳の人」の育成～誰一人取り残さない教育の実現～
- ・菊川市の教育 「豊かな学びで歩み続ける人づくり」  
～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～

本年度より学舎コミュニティー・スクールが導入される。これまで以上に小中学校の縦の接続、地域社会との横の接続を意識し、子供たちを地域の中で連携して育てていく。

### 【菊東学舎「学びの庭構想」】

目指す子供像	もっと課題を解決したいと考え、自ら行動する菊東学舎の子
重点目標	主体性向上

## 4 教育課題

本校の児童は、優しく素直で指示されたことに意欲的に取り組むことができる。男女、学年等の隔てがなく良好な人間関係を築くことができている。

一方、「自ら判断して行動する実行力」や「粘り強く最後までやり抜こうとするたくましさ」が長年の課題となっている。

このような特徴を持つ本校児童が社会の創り手として成長していくために、強みである「優しさ」「協働性」を発揮させ、よりよい集団づくりを進めながら、子供たちが本来もっている向上心や追求心を引き出し、失敗を負の経験と捉えることなく、積極的に挑戦し、その中で強さや柔軟性を培い、地道に、粘り強く努力できる力を養うことを教育の柱とする。

## 5 目指す学校像

◇地域とともにある学校【菊東学舎「学びの庭構想」の実施】

◇笑顔のかがやく学校【安心で安全な学びの保障】

**笑顔**とは**幸せ**の具体であり、人は**自己実現**ができたときに幸せを感じる。学校は子供たちがなりたい自分を見つけ、なりたい自分を目指し、友達の「なりたい自分」を応援する場としたい。子供、保護者、地域、職員の今と未来の笑顔がかがやく学校づくりを進めていく。

## 6 学校教育目標

### かがやく子

<具体的な3つの姿と育てたい資質能力>

① 自分の良さを自覚し、生活の中で良さを発揮している姿

【自己肯定感 自己有用感 表現力】

② よりよい自分や集団を目指し、目的や目標の達成に向けて、自ら判断し、地道に粘り強く、積極的に努力している姿

【課題設定力 自己判断力 自己決定力 実行力 耐性】

③ 周りの人の良さや思いを大事にし、あたたかな心で他者や集団と共に動いている姿

【人間関係形成力 他を思いやり認める力 コミュニケーション力】

本校の教育で育てていく児童の姿を上記3つとし、それらの姿を「かがやく子」という象徴的な言葉で表し、学校教育目標とした。(学校教育目標「かがやく子」は、平成10年度より継続となる。)

## 7 重点目標

### 「やってみよう ～自分から 自分たちで～」

自分の良さを自覚し、前向きに努力を積み重ねていく力を身に付け、学校教育目標の「かがやく子」に迫るため、令和元年度から重点目標を「自分からかがやく」とし、さらに令和4年度からは、本校児童の強みを生かし伸ばそうと「人のために」という視点を加えた。自分を見つめて描いた目指す姿に向かって努力したり、きりりんカードの取組により互いの成長を称揚し合ったりし、自分らしさを大事に他者と関わる経験を積み上げてきた。

これまでの取組により、子供たちが自分の良いところを自覚し、自己肯定感が高まってきていることは感じるが、自主性、判断力、実行力、耐性については引き続き課題となっている。

本年度は、「安心できる学級（学年）の中で、自分の良さを信じて今よりも少し先へ進んでいく、一人では難しいことも友達と一緒に歩を進めていく、自分たちでより良い生活を創り上げていく」ことを基本とし、主体的に生きていく力を蓄えさせていきたい。

そこで、まずは子供たちが自ら一歩（半歩）踏み出していくことを意識し、自分たちで歩いていく力をつけていくため、進むべき方向をより明確に示し、児童と教職員が合言葉的な行動目標として共有し共に取り組むことを願い、重点目標を「やってみよう ～自分から 自分たちで～」と設定した。

最初から自分に自信を持つことはできないかもしれない。それでも自分（の可能性）を信じてまずはやってみる。たとえうまくいなくても、失敗を「価値あること」と捉え、あきらめず、どうしたらいいのか考えて挑戦を続ける。「一人」は「一人ぼっち」ではなく、みんなの中の自分であり、一人でがんばるときもみんなの支えがある、そんな学級づくりを進める。何度もやり直したらできた、みんなの力でできた、自分（たち）で考えて自分（たち）の力でとことんやると楽しいという経験を積むことで自分自身が「まんざらでもない」存在であることを自覚し、支え合う仲間の良さを実感することができる。そうすることで、自ら挑戦し、あきらめない心と粘り強い姿勢を身に付けることができるようにしていきたい。それが自分の人生を自分らしく生き抜く力につながる。

## 8 学校教育目標実現のための具体的な取組

### (1) ステージ制

1年間を3つのステージ（「輝」）に分け、それぞれの時期のねらい（テーマ）を明確にし、全員が同じテーマを意識して成長できるようにする。

テーマの確認→目標設定→実践→振り返り→実践→振り返り～により、「かがやく子」に向かう。実践→振り返り→実践の過程で「やってみよう」の気持ちを育み、試行錯誤により少しずつ前に進んでいけたり、より良いものを目指そうとして粘り強く取り組んだりする経験を積んでいく。

ステージ	テーマ	ねらい
1 輝	自分からつくろう 自分たちでつくろう	今の自分を確かめ、1年後の自分を描き、1年間の基盤をつくる 自分たちの生活を自分たちでつくる
2 輝	自分から進もう 自分たちで進もう	今の自分を更に成長させるために挑戦する よりよい集団を目指して自分ができることを考え、取り組む
3 輝	自分から振り返ろう 自分たちで振り返ろう	自分や周りの人、集団の成長を振り返り、互いに認め合い、感謝する

## (2) 指導の体制

校内組織を心づくり、学びづくり、教務・事務の3部とし、児童の指導については生徒指導を核とした「学びづくり部」と「心づくり部」の2つくり部体制で、学校教育目標の具現を図る。

### ア 取組の基盤

#### 「安心」「安全」な学校

##### (ア) 特別支援教育の充実

- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた生活づくり・授業づくりに取り組み、誰もが過ごしやすい環境を整える。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、困っている児童・保護者に学校体制で相談、配慮、支援を行っていく。

##### (イ) 生徒指導の機能を生かした学校づくり

- ・「きらりんカード」の取組により、自他の成長に気づき、自己肯定感・自己有用感を感じられる心を育てる。
- ・子供の声を生かしたP D C Aサイクルによる魅力ある学校づくりの取組を進める。

##### (ウ) 子供が育つ環境づくり

- ・職員の危機管理能力を生かし、安全な環境を整え、児童の危険予知力の向上を図る。
- ・環境が子供を育てるという意識で美しい環境を整える。  
整理整頓（あるべき物があるべき所に、誰もが使いやすいように）  
子供を育てる掲示（掲示板の計画的活用）  
子供の感性を生かした清掃活動「きれいだと気持ちがいい」

### イ 学びづくり部の取組

#### 主体的な学び「学びの土台づくり」と「授業研修」

- ・学びの基礎基本（学び方）を身に付ける。
- ・学びの面白さを実感する授業を自学につなげる。（家庭学習の充実）
- ・ICTを活用した授業実践を進め、児童のICT活用力を育成するとともに授業の効率化を図る。
- ・校内研修を充実させ、教師の授業力の向上、子供の主体的な学びの実現を目指す。
- ・指導と評価を一体化し、子供に力が付く授業を実践する。

### ウ 心づくり部の取組

#### 主体的な生活 「自分たちの生活を自分たちで創る」「個と集団」

- ・なりたい自分を目指し、自己実現力を身に付ける。
- ・互いを認め合う集団づくりをし、自治力を向上させる。  
「自分たちで考え、自分たちで決め、自分たちで実行する」経験を積み重ねる。

### エ 教務部・事務部の取組

#### 安心して働くことのできる学校

##### (ア) 情報共有体制の強化

- ・本部会、教務会での情報共有と対応方針の確認
- ・生徒指導主任を核とした生徒指導案件への早期対応
- ・養護教諭による毎日の報告と対応の確認

##### (イ) 危機管理体制の向上

- ・安全管理体制、危機対応体制の強化
- ・職員の危機管理意識の向上

### (ウ) 協働体制の強化

学年団を生かした学年運営

- ・教科担任制、授業交換、合同授業、学年部研修の取組
- ・定期的な学年会・学年部会の実施

### (エ) 適切で計画的な予算運用

### (オ) 業務の効率化

- ・学校運営に関わる資料や情報のPDF化
- ・保護者等への通知のペーパーレス化
- ・子供も職員も動きやすい日課と日・週・月・年間の計画

## オ 菊東学舎コミュニティー・スクール

### 地域とともにある学校づくり

#### (ア) 学校・家庭・地域が連携し、共に子供を育てる

- ・菊東学舎学校運営協議会での学校公開
- ・情報の共有（積極的な情報発信により、学校教育への理解を図る。）  
学校・学年・学級だより、ホームページ、PTA活動、参観・懇談会

#### (イ) 地域の財を生かした学習活動

- ・各学年によるカリキュラムマネジメントの実施

#### (ウ) 学校間連携の強化

- ・菊東学舎全体会での授業参観・意見交換
- ・小小連携、小中連携の推進

## 9 学校経営目標

### 誰もが、笑顔になることができる学校づくり

(児童が、保護者が、地域が、教職員が)

人権尊重の教育を基本理念とし、自立した個人同士が互いの良さを認め合い、足りないところは補い合い共に成長していく。その中で自己理解をより深め、主体性を育み、自分の人生を自分らしく生き抜く力を蓄えることのできる学校を目指す。

#### (1) 経営目標

ア 誰もが学びやすく生活しやすい安心で安全な学校をつくる。

イ 子供が自分の目標に向かってとことん学び続ける授業づくりを進め、確かな学力を育てる。

ウ 自分(たち)で考え実行しやり抜く活動を通し、学級力を高め自己肯定感を育てる。

エ 家庭や地域と連携・協働を図るとともに、小小・小中連携を推進し、家庭や地域とともにある学校づくりを進める。

オ 適切で計画的な予算の運用により教育環境を整える。

カ 職員が働き甲斐を感じ、支え合い磨き合うチームとして機能する職員集団を目指す。

#### (2) 経営指標

学校経営目標の達成度を次の指標で判断する。

- ・「学校が楽しい」と答える児童 90%
- ・「授業に主体的に取り組んでいる」と答える児童 90%
- ・「みんなで何かをするのは楽しい」と答える児童 95%
- ・「自分の良いところ」が言える児童 60%
- ・「1年前よりも自分が成長している・力が付いている」と言える児童 95%
- ・「信頼することのできる先生がいる」と答える児童 95%、保護者 90%

- ・「学校は活動の様子や状況を家庭や地域に伝えている」と感じる保護者 90%
- ・「働きやすい・働きがいがある」と答える職員 90%